基本構想 6-1

学ぶよろこびを感じられるまちづくり

H29. 4
社会教育課

1 生涯学習の支援と推進体制の整備

めざす姿　市民一人ひとりが生涯にわたって心豊かで潤いのある生活が送られるよう自発的意志に基づいて学習ができ、その成果が社会に生かすことができている。

	推移						目標		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H35
生涯学習に取り組みやすい(満足度調査)	3.12p	−	3.15p	−	3.1p	−	3.25p	3.30p	3.50p

29年度のポイント
① 多様化する学習ニーズに対応するための情報発信
② 生涯学習プランの推進

① 社会教育総務管理事業 継続 【予算額　8,394千円】

学習情報の提供
「まなびい」「生涯学習メニュー版」の発行による情報発信

アルプスふれあいキャンプの実施
自然体験・共同生活体験活動を通して、仲間づくりするとともに
自主性や社会性など「生きる力」の育成を図る

人権教育の推進
人権教育推進協議会を運営し、講演会等を行い人権教育を推進する

全国大会出場者の激励
文化団体の全国大会出場者に対して激励する

みんなで協力して夕食づくり

アルプスふれあいキャンプ
二次キャンプ
於：戸倉山キャンプ場

今日のお昼は流しそうめん

生涯学習メニュー版
公民館などで開催する
講座等を紹介しています

② 公民館管理運営事業 継続 【予算額35,754千円】

3公民館共同事業の実施
年３回のふるさと講座の開催

公民館報の発行

各公民館の管理運営事業の実施
公民館運営審議会の開催
学級・講座を企画運営し学習活動を展開する
公民館分館の育成（分館長・主事会の開催）
施設管理

赤穂公民館建設の基本設計の実施　2,000千円

ふるさと講座

2 生涯学習施設の整備と活用

めざす姿	地域の特性を活用しながら、学び・実践していく場所としての施設整備と活用がなされている。

	推移						目標		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H35
図書館や公民館などの利用環境が整っている(満足度調査)	3.63p	−	3.65p	−	3.6p	−	3.68p	3.70p	3.80p

29年度のポイント	① 老朽化していく学習施設の整備を進めます。 ② 生涯学習活動を支援します。

① ふるさとの丘管理運営事業 継続 【予算額8,038千円】

指定管理による維持管理

竹花工業㈱駒ヶ根支店に指定管理を委託し施設の維持管理を行う

ふるさとの丘施設用地の借用

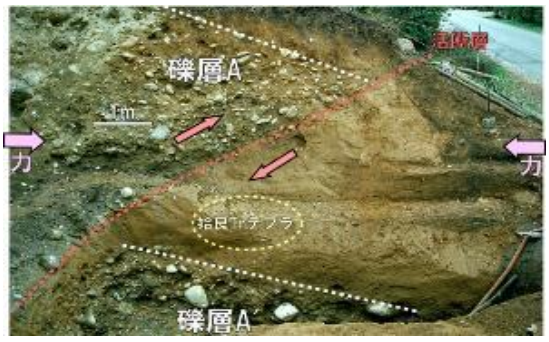
６人の方から借用している土地の賃借料

② 十二天の森整備運営事業 継続 【予算額 12,442千円】

生涯学習の場として、子どもたちを中心に活用する

自然観察会、ウォーキング講習等の開催
遊歩道等の整備
ボランティア活動

春の自然観察会より



断層路頭部分の様子

③ 市民農園整備運営事業 継続 【予算額 117千円】

市民農園の貸出

市民農園　北割　２３区画
　　南割　１６区画　　計３９区画の貸出

市民農園用地の賃借料

基本構想 6-2

豊かな地域文化・芸術を育むまちづくり

H29. 4
社会教育課

1 文化財の保存と多面的な活用の推進

めざす姿　貴重な文化財の調査研究・保存に努め、有効に活用しながら、次世代に引き継ぐ意識の高揚が図られている。

	推移(H28は見込み)					目標			
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H35
文化財の指定件数	36件	−	−	42件	45件	47件	48件	49件	50件

29年度のポイント
① 新たな文化財の指定
② 文化財の有効活用を図る

① 竹村家管理運営事業　継続　【予算額　2,304千円】

指定管理による維持管理
駒ヶ根伊南シルバー人材センターに指定管理を委託し施設の維持管理を行う

施設用地の借用
借用地の賃借料

旧竹村家住宅　文化財防火デー消火訓練の様子

② 文化財保存事業　継続　【予算額　2,339千円】

新たな文化財の指定
文化財審議会の開催

指定文化財の保存管理
旧木下家住宅
民俗資料館
赤須城跡
芭蕉の松

文化財活用イベントの開催
旧木下家住宅活用イベント「夢育屋」を開催

光前寺庭園整備活用委員会の開催
名勝光前寺庭園の整備を行うための活用委員会の開催、講演会等の開催

文化財の修繕
郷土館　建物の修繕 300千円

芭蕉の松（東伊那火山）

旧木下家住宅（中沢中山）
活用イベント「夢育屋」開催

郷土館（菅の台）
駒ヶ根高原ブライダル協会

③ 埋蔵文化財発掘事業　継続　【予算額　141千円】

埋蔵文化財発掘調査委託
・ 埋蔵文化財包蔵地において緊急的に発掘調査が必要となった場合に実施する
その後、事業主より調査費を補填させる
・埋蔵文化財包蔵地にかかる土木工事等の工事立会い

基本構想
6-2

H29.4
社会教育課

2 創造的な文化芸術活動の推進

めざす姿　多くの市民が優れた文化芸術に触れる機会を持ち、自らも文化・芸術活動に参加をしている。

	推移(H28は見込み)					目標			
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H35
文化芸術に親しみやすい(満足度調査)	−	3.05p	−	3.10p	−	3.15p	3.20p	3.21p	3.70p
文化センター利用者数	150千人	151千人	152千人	154千人	156千人	158千人	160千人	165千人	170千人

29年度のポイント	①優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供します。
	②文化施設の整備を進めます。

① 総合文化会館の運営　継続　【予算額　286,954千円】

文化センター管理運営事業　(260,677千円)

駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し各種事業の実施及び施設の維持管理を行う
- 自主事業の開催（古典芸能・ミュージカル・Ｊ−ＰＯＰ等）
- 伝統芸術文化の継承と保存
- 文化団体、鑑賞団体の育成と支援
- 施設管理

駒ヶ根市文化財団職員の人件費補助
- 専門的職員を育成し、身分保証していくため　嘱託職員を正規化する

駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し勤労青少年ホーム女性ふれあい館運営を実施
- 勤労青少年ホーム、女性ふれあい館によるスキルアップ講座等の開催

施設の大型修繕
- 文化会館大ホール天井耐震改修　55,000千円

図書館管理運営事業　(20,838千円)

駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し図書館運営を実施
- 図書、諸資料の購入による蔵書資料の充実を図る
- 子ども活動推進計画による、　・ブックスタート、セカンドブックの実施
  ・絵本巡回事業の実施
  ・おはなし会等の行事の開始
- 「第３次駒ヶ根市子ども読書活動推進計画」の策定

蔵書数及び貸出数の推移

	平成24年度（実績）	平成25年度（実績）	平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（予定）	平成29年度（目標）
蔵書数(冊)	182,940	183,776	185,598	174,464	188,000	189,000
貸出数(冊)	208,847	203,942	195,986	220,724	220,000	220,000

博物館管理運営事業　(2,922千円)

駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し博物館運営を実施
- 第１6回「駒展」の開催
- 第2回ジュニア駒展の開催
- 各種企画展示の開催
- 資料の収集整理
- 収蔵資料集　約127千点
- 「駒ヶ根市の先人」作成

【写真】第1回「ジュニア駒展」
市内小・中学生３５名が入選
写真は表彰式の様子

天竜かっぱ広場管理運営事業　(2,517千円)

駒ヶ根市文化財団に指定管理を委託し天竜かっぱ広場運営を実施
- 親子ふれあい講座、ミニホット講座、歴史講座の開催
- 館収蔵資料・作品による企画展示の開催
- 竜東地域活性化への協力
- 施設管理

基本構想 6-3

スポーツの推進により健康で心豊かなまち

総合戦略 4-(7)

スポーツの推進による地域活力の推進

H29.4
社会教育課

1 市民スポーツの推進と環境整備

めざす姿

・スポーツを親しむ市民が増えている。
・市民出身のアスリートが各種大会で活躍している。

	推移(H28は見込み)					目標			
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H35
スポーツ少年団の小・中学生の加入割合	23.4%	22.9%	20.6%	21.6%	23.0%	24.0%	25.0%	25.5%	26.5%
週１回以上スポーツを実施する市民の割合	32.0%						50.0%	55.0%	65.0%

29年度のポイント

① スポーツがもつ本来の力から、地域コミュニティーや絆を構築し、一体感ある地域を目指します。

① 第5回信州駒ヶ根ハーフマラソンの開催

継続 【予算額 8,534千円】

過去4回の大会では、「走る人」「応援する人」「スタッフとして支える人」が皆で楽しむことをコンセプトに、市内各地域や、団体の皆様のご協力の下、大会に参加されたランナーの皆様から高い評価を受けることができました。

今年も全国から参加する約3,000名のランナーの皆さんを、沿道での応援やスタッフとして大会を支える市民の皆さんの笑顔あふれる「おもてなし」でお迎えし、今回もランニング100撰入選と、この大会を軸とした地域の活性化を目指します。

開催日：平成29年9月24日（日） 参加者 3,000名（ハーフ、5Km、3Km)

② かけろ駒っ子かけっこ教室

継続 【予算額 391千円】

〇誰もが親しみやすく、あらゆるスポーツの基礎となる「かけっこ」を通して、子どもの体力向上やスポーツに親しむ機会を増加させ、家庭や地域内でのスポーツによるコミュニティーづくりから地域全体のスポーツ推進を図って行きます。

かけろ駒っ子 かけっこ教室・かけっこ検定の試行

過去三年間で行ったかけっこ教室は、子ども達の運動対する意識付けとして、一定の成果をあげることができた。

四年目となる今年は、陸上短距離で元オリンピック選手の青戸慎司氏が作成したかけっこマニュアルを基に考案していただいた、かけっこ検定を試行することで、子ども達の運動意識を更に高めていく。

モデル校による学校教育との一体的な取り組みは県内初。

子ども達が検定合格を目標に、学校や家庭、地域でのかけっこの輪を広げ、スポーツに親しむ子どもを増やします。

③ トップアスリートとの交流事業

継続 【予算額 600千円】

オリンピック・パラリンピック・W杯に出場したトップアスリートや、国内トップスポーツで活躍しているアスリートを講師に招き、子どもたちにはスポーツを通して「夢」を持つことや「夢」の実現に向け体切な話を聞いたり実際に指導を受ける中で、自ら「夢」を持ちその「夢」をスポーツを通して実現させるために努力していく姿を応援します。

また、地域でスポーツの指導に携わる人や、これを志す人へもアスリートによる指導者セミナーを開催し、指導者としての心構えや指導方法を学び、指導者の育成や人材発掘へと繋げていきます。

さらに、協定を結んだ日本体育大学や、国内で同じ協定を結んだ他の自治体との連携により、トップアスリートや、集団行動等との交流を核に新たな地域間の交流から生まれる、健康づくりや元気なまちづくりの推進等、地方創生に即した活力ある取り組みを進めます。